

ハイチ共和国大型ハリケーン被害

TMAT 災害医療活動報告

平成 28 年 10 月 14 日 8:00（日本時間）

第 4 報（最終）

※以降現地時間で記載

10 月 11 日

7:30 頃 ハイチ西部のジェレミーに宿泊した TMAT・AMDA 合同チームは、前日夜間到着で確認が取れなかったレジェミー市内の状況調査を開始した。市内はハリケーンによる建物被害や木々が倒れている光景が目立つが、市場は再開している状況であった。

10:30 頃 WHO/PAHO によるハイチハリケーン被害における EMT（Emergency Medical Team）の WEB ミーティングが開かれ、TMAT もこのミーティングに招待。日本より事務局の野口と石田（湘南鎌倉総合病院）が参加。このハリケーンによるハイチ国内の死者は 356 名。現在はコレラ対策が一番のニーズであり、すでに 300 名を超えるコレラ患者疑いが西部を中心に発生している旨が報告された。また、コレラに対する医療支援を行う団体は、自己完結（移動、医療物資、治療）できる団体で、必ずハイチ政府と WHO/PAHO に登録して活動するよう指示がされた。

11:00 頃 同市内で最も大きな病院、セントアントワン国立病院を訪問。外科系患者もみられたがそれほど多くなく、重症患者はポルトープランスに搬送する体制となっていた。
また、ハリケーン後に発生したコレラ患者への対応のため屋外に仮設の隔離病棟を設置し、30 名ほどのコレラ患者を収容。看護師と看護学生により点滴等の対応を行っており、忙しい状況であった。靴の消毒を含め、スタンダードプリコーション（標準予防策）は徹底されていた。
慢性的な医師不足に加え、コレラ患者の拡大があり、その対応についてのニーズは確認された。
その他 2 つの民間病院を訪問したが、混乱はなかった。

15:30 頃 避難所を訪問。食料等の物資提供を行いながら医療ニーズを調査。外科系患者を含め、緊急性の高い患者はいなかった。

ジェレミーでの情報収集活動と WHO/PAHO の見解を踏まえ、今後の活動について検討をおこなった。

- 孤立している集落等では未治療の外傷患者がいると思われるが、外傷系ニーズが高いということまではない
- 現時点ではコレラへの対応が優先事項である
- 食料や物資のニーズが高い状況

TMAT・AMDA 合同チームとして以上の評価を行い、**TMAT としては先遣隊派遣を持って活動を一旦終了することとした。**なお、AMDA はハイチ支部の活動継続と中南米支部、日本からの派遣を視野に支援の継続を行う予定とのことである。

19:00 頃 首都ポルトープランスに向けてジェレミーを出発。

10 月 12 日

5:00 頃 ポルトープランスに到着。

8:00 頃 TMAT 先遣隊の高力医師と西村看護師は 7:54 ポルトープランス出発マイアミ（米国）行きの便で出発。ロスアンゼルスを経由して、日本時間 14 日午前 5:00 頃羽田空港に到着する予定。

10 月 14 日（日本時間）

5:00 頃 TMAT 先遣隊の 2 名は羽田空港へ無事到着した。2 名とも健康状態は良好である。

これを持ちまして、TMAT ハイチ共和国大型ハリケーン被害先遣隊活動を終了といたします。

ご支援ご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました。引き続き、NPO 法人 TMAT をよろしくお願い申し上げます。



レジミー市内。ハリケーンの建物に影響がみられる。



ジェレミー市内で最も大きな国立病院にて情報収集



仮設で設置されたコレラ専用病棟



外科系の患者も治療されていた



病院関係者から情報収集



病院医師と TMAT・AMDA チーム



ジェレミー市内の避難所



沿岸部の町ジェレミーと子供たち



先遣隊 2 名無事に帰国

事務局担当

野口 幸洋 (NPO 法人 TMAT / 一般社団法人徳洲会東京本部

(文責 事務局 野口 幸洋)